

はじめに Rimse東京懇談会調査結果を考える

～新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善への期待～

座長 大江 近

1952年和歌山県生まれ。東京都立中学校社会科教諭、練馬区教育委員会・東京都教育庁指導主事・主任指導主事・主任管理主事・義務教育心身障害教育指導課長、渋谷区立上原中学校長、全日本中学校長会会長、日本中学校体育連盟会長、中教審委員、早稲田大学大学院客員教授、東京都人権施策専門家会議委員、教員養成評価機構評議員。

新学習指導要領が求める授業改善

新学習指導要領は、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、①生きて働く「知識・技能」の習得、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養の三つの柱に整理して示しました。

また児童生徒の資質・能力の育成のためには「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要であるとし、アクティブ・ラーニングの視点に立った取組みを図るように求めています。

具体的には、授業における言語活動、観察・実験、問題解決的な学習などの一層の充実とともに、学習を見直し振り返る場面の設定、グループなどで対話する場面の設定、児童生徒が考える場面と教師が教える場面の組立てなどが具体的に示されました。

特に、「深い学び」のポイントとして「見方・考え方」を働かせることが重要であるとし、児童生徒が「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることに教師の専門性が大切であるとしました。

「見方・考え方」とは、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、その教科ならではの物事を捉える視点や考え方のことですが、従前から理数系教科では最も重視されてきた項目のひとつです。

今回の学習指導要領の改訂において全ての教科に「見方・考え方」が明確に位置づけられ、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであることが強調されました。

さらに、児童生徒に求める資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習の充実や、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、教育効果を向上させるための人的・物的な体制の確保などを実現させるために、教育課程の編成、実施、評価、改善のPDCAサイクルの適切な実施に向けたカリキュラム・マネジメントの確立も求められています。

Rimse東京懇談会の取組み

このような中、平成28年8月、Rimse東京懇談会を立ち上げ、本年第7回の開催を迎えました。

Rimse東京懇談会は、学校教育の専門家が一同に会し、理数科目に関わる課題を切り口として学校教育の観点から教育全般をめぐる諸課題について研究・協議・発信を行い、学校教育の充実に資する取組みを行うことを目指したものです。

メンバーの全員がいずれかの大学において実務家教授として教員の資質・能力の育成に携わる、教育の実践的専門家です。

教師として、教育行政における管理職として、公立学校の校長としてなど、豊富な経験と教科指導の専門性がきわめて高いメンバーに集まっていたいただき、活発な議論を繰り返してきたところです。

具体的な議論としては、教員研修に関する課題、教員採用に関する課題、教員養成に関する課題、教員の研修・採用・養成を通じた課題、教員免許制度に関する課題、教員の資質・能力に関して校長が直面している課題など、中央教育審議会等の動向を踏まえて多岐にわたる懇談を行ってまいりました。

また、目白学園理事長の尾崎春樹先生、東京学芸大学学長の出口利定先生に御臨席いただき、講演を頂戴することができたことも大きな励みとなりました。

調査研究部会の設置へ

現在、学校においては新学習指導要領の適正実施及び教育の質の向上のために懸命な取組みをしているところです。

教員の資質・能力の向上、教員不足、教員の世代交代などさまざまな課題が指摘されている中、健全育成をめぐる課題、部活動の担当者の確保、多様化する保護者の価値観への対応など、教員の業務も困難を極め、教員の疲弊感も強く伝わってきているところです。

文科省を中心として「働き方改革」がすすめられておりますが、今後、学校の努力に加えて、教員定数の改善、教員の処遇改善など具体的に施策が充実されていくことを期待したいと思います。

Rimse東京懇談会では、茨城大学教授の小口祐一先生、茨城大学准教授の小西康文先生、芝浦工業大学特任助教の飯村文香先生にご指導・ご協力をいただき、Rimse東京懇談会調査研究部会を設置し、懇談会委員から指摘があった事項について、実態調査をすることとしました。

具体的には、教員研修の実態と校内環境の状況及び「主体的・対話的で深い学び」の実践状況に着目し、**「教員研修に関する主な観点」**として、「各地で実施されている研修」、「先生方のニーズ」、「外部研修、校内研修の効果的な事例」など、**「校内環境に関する主な観点」**として、「専科教員の実態や役割」、「ICT環境や授業のユニバーサルデザインなどの新たな取組み」など、**「学習内容に関する主な観点」**として、「指導しにくい内容、児童生徒が理解しにくい内容」、「主体的・対話的で深い学びの実施状況」、「つまずきの原因」など、としたところです。

各地区教育長、指導室課長、校長先生などに調査依頼をしたところ、ほとんどの地区が快く引き受けていただくとともに、是非、調査結果を活用したいという要望もいただいたことは、我々の励みともなりました。

調査結果について各委員から

調査結果の具体的な数値については、本紀要の内容をご覧いただきたいと思います。

Rimse東京懇談会の各委員の先生方からは、次のようなコメントをいただいたので、抜粋して要旨を紹介させていただきます。

- ・教育委員会には教員を育てる責務があり、教員の研修の機会が保障されているとともに、研修会の内容もニーズに応じて工夫されている。
- ・教員の学ぶ意欲は衰えていない。少ない時間で効率的に学ぶ研修を提供していくことが課題解決の一助となる。
- ・今後は全ての小学校で外国語を専門とする専科教員の早急な配置が求められる。本紀要のデータを専科教員配置に向けた基礎資料として活用し、早急な対応に取り組んでほしい。
- ・ALT等、英語に堪能な外部人材を活用することは、特に「聞くこと」、「話すこと」のコミュニケーション能力や「関心・意欲・態度」の向上を図る上で必要不可欠である。
- ・職員会議や校内研修会で本紀要のデータを示しながら教育委員会主催研修会への積極的参加を促し、校内研修の活性化を図っていただきたい。
- ・本紀要のデータを研究会で話題にいただき、皆さんの実践に基づく専門的な視点から更に深く分析して、教員育成に活かしてほしい。
- ・各学習内容と指導場面との関係性を取り上げ分析した調査は過去に例をみない。
- ・管理職は若手教員の育成に際し、授業の基礎・基本の習得に配慮しながら新しい教材の活用を図りたい。

調査結果の活用を具体的に

調査結果の活用については、今後、協力をいただいた

教育委員会や学校の取組みに期待するところではあります。Rimse東京懇談会においても、調査結果の貴重なデータを踏まえた懇談を行い、一定程度の提案ができればと考えております。

その手順としては「課題を明らかにすること」、「改善策を具体的に考えること」、「実行する際の課題と問題点を整理すること」、「成果について検証すること」などを考えております。

「課題を明らかにすること」

調査結果のデータをもとにし、教育委員会や学校の具体的な現状を踏まえた協議を実施します。

「改善策を具体的に考えること」

持続の実施が可能な改善策を協議し、具体的な提案を検討し提案したいと考えています。

「実行する際の課題と問題点を整理すること」

改善策を実行する際の課題と問題点を具体的に協議しながら整理し、改善策の提案とともにお示ししたいと考えております。

「成果について検証すること」

改善策の成果について検証したいと思います。その方法については、今後の懇談会において協議していきたいと思っております。

調査を終えて

教員研修をはじめとする教育の資質・能力の向上、児童生徒の学習環境の充実、学習内容・方法をはじめとする授業改善にかかわる課題は、教育委員会においても、校長先生の学校経営においても、大変関心が高いものであり、喫緊の課題であることは、改めて認識させていただきました。

- ・教員は極めて多忙ではあるが、授業準備や教材作成には時を忘れて夢中になって取り組んでいる。
- ・教員は授業改善の方法や新しい情報を求めており、そのために使う時間に負担感はない。
- ・校長先生は、教員一人一人とかかわる時間を惜しまず、熱心に授業に出向いている。
- ・教育委員会は、学校のニーズや課題を把握し、研修会の内容や方法を積極的に改善している。

これらのことを、調査を実施するなかで改めて感じたところです。

本研究紀要が積極的に活用され未来を担う児童生徒が学ぶ教育環境が一層充実することを期待します。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた教育長様をはじめ各教育委員会の皆様、校長先生方をはじめ各学校の先生方、ご指導いただきました皆様に改めて感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。 *